

支間長最大180mで河川への影響低減



「Golden Gate Kalyani Bridge」全景

スリランカの最大都市コロンボ市に集中する既存アークセス道路の渋滞緩和などを目的に、ケラニ川を横断（TEP）事業で行われた。渡河部の主橋は同国初のエクストラードゾド橋が採用され、シンボリックな主塔から伸びる黄色の斜材が大きな特徴だ。取り付け橋・道路を含めた橋梁上下部工事を三井住友建設・サンケンコンストラクション（スリランカ）が手掛けた。プロジェクト名は「ケラニ河新橋建設

ケラニ河新橋建設事業パッケージ2 エクストラードゾド橋工区

（スリランカ）

事業パッケージ2「エクストラードゾド橋工区」。スリランカ高速道路省・道路開発局が発注し、2017年10月に工事が始まった。工事延長は上下線各3車線で構成する取り付け橋（南北計625m）と主橋380m、取り付け道路180mの計1185m。主橋の構造はプレストレストコンクリート（PC）3径間連続エクストラードゾド箱桁橋。頻繁に氾濫するケラニ川の流下能力を阻害しないよう、支間長は最大180mの長スパンとし橋脚を両岸に設けることで河川への影響を低減させた。桁架設は橋脚から左右に橋体を伸ばしていく張り出し工法を採用。全幅員30・4mの張り出し架設はまれにみる規模だったが、通常の5倍程度の能力を持つ超

大型型枠移動作業車を使い作業を効率化した。南北の取り付け橋はオールステーション工法で架設。基礎杭はいずれもアースドリル工法で施工した。シンボリックな塔形状を有するエクストラードゾド橋がバンダラナイケ国際空港からコロンボ市内へのゲートウェイとなることを期待し「Golden Gate Kalyani Bridge」と命名された。21年11月24日に同国のゴダバヤ・ラージャパクサ大統領ら関係者が出席し盛大な開通式を開いた。

主塔と斜材にはLEDランプを設置しており、祝賀行事など特別な日には色とりどりに点灯し、華やかにライトアップできる。日本とスリランカの建設会社が協力し建設した橋が、新たなランドマークとして存在感を放ち親しまれている。



架橋中のエクストラードゾド橋

待し「Golden Gate Kalyani Bridge」と命名された。21年11月24日に同国のゴダバヤ・ラージャパクサ大統領ら関係者が出席し盛大な開通式を開いた。

コロンボ中心街と同国第2の都市キャンデーを結ぶ国道A01号線、空港にアクセスする国道A03号線などの交通が集中し、ボトルネックだった既設橋（ケラニ橋）の交通が分散され、周辺地域の渋滞緩和に大きく貢献している。

